

思い出は、冬のオークランドに・・・

平成八年度日光市青少年海外体験研修報告

●夏休みが始まって間もない七月二十六日の夕方、飛行機は期待と不安を一杯にした日光市海外体験参加者（中学生二名、高校生三名）を乗せ、一路ニュージーランド北島のオークランドを目指して成田空港を離陸しました。

五月十日に行われた参加者選考会の後、出発までに四回の事前研修を経て来ましたが、その内、特に二回の研修では、日光高等学校の英語の指導助手でニュージーランド出身のデボラ先生が英会話や現地での生活習慣の研修等に協力して下さいました。

●日本は夏真っ盛りでしたが、南半球に位置するニュージーランドは今が真冬。未明の冬のオークランド空港に降り立った私達は、用意していた厚手の上着を着込みました。しかし、日光の真冬のような厳しい寒さではなく、風さえ無ければとても過ごし易い気候です。

空港ではニュージーランドホームステイ協会（N・Z・

I・I・U）の方の出迎えを受け、簡単な挨拶や今後の日程等を打ち合わせした後、一週間お世話になるホストファミリーの皆さんと面会する為、バスでオークランド市郊外の「マヌカウ・インターメディアイトスクール」（日本で言う中学校）に向かいました。この学校がこれから研修生達のスタディーセンターとなる学校です。

N・Z・I・I・Uのチューターコーディネイターであるソーステンセン夫妻から歓迎の挨拶を頂きました。チューターコーディネイターとは、今回の研修の全てのプログラムを企画運営してくださる方です。教室に案内されると、そこにはそれぞれのホストファミリーが待っており、いよいよ研修生達は一人づつに別れてホームステイを始めることになりました。



●ホームステイ先は学校を中心に徒歩で二十〜三十分の範囲に点在しており、近くには「ワンツリー・ヒル」という、オークランドの象徴のような大きな公園があります。到着した日が土曜日の為、翌日曜日にかけて各研修生はホストファミリーと一緒に、ボートセイリングを楽しんだり、フットボールを観戦したりと、休日の観光やショッピングを満喫しました。また、現地では日本食についての情報もかなり進んでいるらしく、ホストファミリーが「とんかつ」を作ってくれたり、焼肉や刺身を食べに連れて行ってくれました。

●月曜日。研修生達は、それぞれのホストマザー手作りのランチを持って登校して来ました。今日から三日間、午前中は授業、午後は各施設を訪問することになります。授業が始まる前に、学校の生徒達が先住民族であるマオリ族の歓迎の踊りを披露してくれたり、軽食を楽しみながらの交流会を催してくれました。この学校はマオリ系の生徒が多い中学校で、子供達は人懐こい笑顔で応対してくれました。

今回の研修では日本語が一切使えず、研修生達にとって辛い研修だったかも知れません。し